1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに拡大しつつある」

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに拡大しつつある	**緩やかに拡大しつつある**	→

（注）8 年 10 月判断は、前回 8 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに拡大しつつある。観光は、台風の影響がみられるものの、旅行需要は堅調であることから、拡大しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに拡大しつつある	**緩やかに拡大しつつある**	→
観光	拡大しつつある	**台風の影響がみられるものの、旅行需要は堅調であることから、拡大しつつある**	→
雇用情勢	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	→
設備投資	8 年度は増加見込み	**8 年度は増加見込み**	→
企業収益	8 年度は増益見込み	**8 年度は増益見込み**	→
企業の景況感	「上昇」超幅が横ばいで推移している	**「上昇」超幅が拡大している**	→
住宅建設	前年を上回っている	**前年を上回っている**	→
公共事業	前年を上回っている	**前年を下回っている**	↘
生産活動	一進一退の状況にある	**一進一退の状況にある**	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに拡大していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに拡大しつつある」

百貨店・スーパー販売額及びコンビニエンスストア販売額は、台風の影響がみられるものの、好調な観光需要と堅調な地元の消費需要を背景として、前年を上回っている。

ドラッグストア販売額は、台風の影響がみられるものの、食品の取扱い拡大などから前年を上回っている。家電販売額は、エアコンの需要が好調なことなどから前年を上回っている。新車販売台数は前年を上回っている。中古車販売台数は、前年を下回っている。このように個人消費は、緩やかに拡大しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 7～9 月の売上げは、前年比で増加しており、景況感は良いと感じている。食催事を中心とした催事企画は、SNS の情報発信による集客が功を奏して好調である。また、施設内に新規出店した店舗が、県内客のみならず観光客の集客にも貢献している。中東情勢の影響で生じたナフサ不足に関して、レジ袋は在庫で対応して価格を据え置いている。（百貨店・スーパー）
- 7 月は、気温が高く推移したことで、飲料・氷・アイスクリーム等の季節商品の売行きが好調であった。8 月は、台風 13 号の接近（8/6-8）による 2 日間の休業のほか、台風 18 号の接近（8/25-26）に伴う一部商品の販売時間短縮の影響がみられたが、旧盆による関連商材の需要増もあり、売上げは大きく伸びた。ただし、9 月の売上げは、旧盆が前年の 9 月から 8 月となったことによる反動減の影響を受けている。（百貨店・スーパー）
- 7 月は、台風の影響を受けた 6 月から一転して全体的に天候に恵まれたことから、売上げは好調であった。8 月は、台風の影響で、一部店舗の休業や観光立地店舗での土産品の売行き減少などで、不調であった。9 月は、シルバーウィークの影響で、売上げの増加がみられた。（コンビニエンスストア）
- 売上げ増加の主な要因は、食品の取扱い拡大による客数増加である。UV 関連商品、殺虫剤等の売行きも堅調に推移している。ただし、8 月は、外国客の需要減少のほか時短休業など、台風の影響を受けた。（ドラッグストア）
- エアコンの 2027 年問題に伴う駆け込み需要や「おきなわ省エネ家電購入応援キャンペーン」（R8.3.13～R8.9.4）の実施から、エアコンの需要は好調であったが、冷蔵庫やテレビの売れ行きは前年並みであった。（家電量販店）
- 自動車の受注は堅調であるものの、8 月は台風及び旧盆による客足減少の影響を受けた。ただし、9 月は中間決算セールの効果がみられる。（自動車販売）

■ 観光 「台風の影響がみられるものの、旅行需要は堅調であることから、拡大しつつある」

入域観光客数は、台風の影響による航空便の欠航があったほか、海外クルーズ船の寄港回数の減少などにより、国内客及び外国客ともに前年を下回っているものの、旅行需要は堅調となっている。このように観光は、台風の影響がみられるものの、旅行需要は堅調であることから、拡大しつつある。

- 8 月は、夏季観光シーズンにおける好調な旅行需要を背景として、予約上の旅客数は前年を上回る見込みであった。しかしながら、年間を通じて最も需要の高い時期に台風の影響を受けたことから、その影響度合いは大きく、旅客数は前年を大幅に下回った。一方、足下の 9 月は、大型連休などを背景に好調に推移しているほか、先行きについても好調に推移するとみている。（運輸）
- 今期は、夏季観光シーズンであり、また、9 月の大型連休を背景として、予約状況は堅調に推移していたが、台風の影響を大きく受け、売上げは、前年同期を下回った。ただし、航空運賃を含む旅行代金の高騰を受け、近年は、旅行代金の比較的低廉な時期（夏期観光シーズン以外）にも、需要が増加する傾向にある。（旅行）
- 海外クルーズ船は大幅に減少しているものの、海外クルーズ客の主な訪問先である小売店や飲食店からは、大きな影響が生じているとの声は聞かれていない。（業界団体）
- 夏季観光シーズンに加え、9 月の大型連休の効果もあり、予約段階では個人客、団体客ともに好調で、延べ宿泊者数は前年を上回る見込みであった。しかし、8 月の台風の影響を大きく受けたことで、最終的には前年並みの水準での着地となった。先行きについては、団体客を中心に堅調に推移するとみている。（宿泊）
- 夏季観光シーズンや 9 月の大型連休の影響で、国内客、外国客ともに好調に推移している。7 月及び 8 月の台風による影響がなければ、更なる上昇が見込まれた。先行きについては、夏季観光シーズン以外でも家族で休暇を取りやすくなっていることなどを背景として、予約が堅調に推移しており、旅行需要の平準化を感じている。（宿泊）
- 国内客、外国客ともに好調で、客室単価、稼働率ともに高水準で推移していたことから、台風の影響がなければ前年を上回る実績が見込まれる状況であった。特に外国客が増えており、外国と比べて物価安の状況や円安の影響もあって、欧米などの代替地として沖縄が選ばれていると考えられる。（宿泊）
- 今期の来場者数は、7 月及び 8 月に沖縄に接近した台風に加え、本州や台湾に接近した台風による旅行のキャンセル等の影響を大きく受け、前年を下回った。台風の影響がなければ、夏季観光シーズンや 9 月の大型連休の効果もあり、前年並みの水準で好調に推移していたとみている。先行きについては、航空便の予約状況が堅調であることや国際線の増便などを背景として、前年同期並みの水準で好調に推移すると見込んでいる。（娯楽）

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率及び完全失業率は、おおむね横ばいの状況にある。新規求人数は前年を下回っているものの、法人企業景気予測調査（8 年 7～9 月期）の従業員数判断 BSI は「不足気味」超となっており、企業の人手不足感は高い状況が続いている。このように雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

- ➢ 令和 8 年 8 月の有効求人倍率（季節調整値）は 1.06 倍で、49 ヶ月連続で 1 倍を超えており、離職者等は前年比で減少している。なお、新規求人数は減少傾向にあるが、外国人労働者の増加や DX の進展のほか、最低賃金の改正に伴う賃金調整に時間を要しているなど、求人数減少の要因は様々であると考えている。（公的機関）
- ➢ 技術者（建築施工管理技士・土木施工管理技士）の不足は慢性的であり、求人内容の見直しによる給与・待遇面の改善だけでは、人材確保が難しくなっている。（建設）
- ➢ 医療・福祉については、賃金水準や労働負担の大きさなどを背景に人材確保が難しく、慢性的な人手不足の状況が続いている。外国人労働者の受入れにより人材を補っているものの、人手不足の解消には至っていない。なお、人件費増加等で倒産する企業も一部発生しているが、失業者が増加した等、雇用情勢悪化の声は聞こえてこない。（情報通信）
- ➢ ハローワークを通じた正社員及びパート社員の募集に加え、店舗によっては、必要な時間帯に限定して人材を確保できるスポットワークサービスを活用している。（ドラッグストア）
- ➢ 退職者の増加や採用の低迷を背景として、工場部門における人員不足が生じている。このため、生産体制を一時的に 3 交代制から 2 交代制へ変更して対応している。（鉄鋼）

■ 設備投資 「8 年度は増加見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 製造業では、増加見込みとなっている。

○ 非製造業では、金融・保険、運輸・郵便などで減少するものの、卸売・小売、不動産・物品賃貸などで増加することから、全体では増加見込みとなっている。

- ➢ 堅調な地元の消費需要を踏まえて店舗建替え等を実施している。（小売）
- ➢ 好調な観光需要を取り込むために大型駐車場を建設している。（不動産）

■ 企業収益 「8 年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 製造業では、赤字転化の見込みとなっている。

○ 非製造業では、運輸・郵便などで減益となるものの、サービスで増益となることなどから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超幅が拡大している」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 企業の景況判断 BSI は、全産業では、「上昇」超幅が拡大している。先行きは、「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

○ 新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲住宅のいずれも前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

○ 公共工事前払金保証請負額（8 年度 9 月累計）は、前年を下回っている。

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

○ 生産活動は、足下で食料品が低下していることなどから、一進一退の状況にある。